

第2回 情報推進常任委員会会議録

平成30年6月6日(水)

委員会 議室

○会議日程

- 1 開会宣告(14時46分)
- 2 協議事項
(1) こども議会について
- 3 閉会宣告(15時26分)

○出席委員(8名)

委員長	2番	西澤裕之
副委員長	5番	鷺見悟
委員	1番	富樫直敏
委員	3番	斎賀弘孝
委員	4番	無量谷隆
委員	6番	吉原哲男
委員	7番	高橋秀之
委員	8番	植村敦

○議会事務局出席者

事務局 長	藤田秀紀
主 事	満保希来

西澤委員長

ただいまより、第2回情報推進常任委員会を開会いたします。

協議事項といたしましては、昨日行いましたこども議会についての幌延中学校からの反省、感想ということで、挙がってきておりますので、まず、これを皆さん黙読していただいて、その後ご意見等いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(こども議会反省・感想用紙黙読)

といったところで、こども達の感想、反省も踏まえてですね、昨日行ったこども議会についての委員皆さんの意見をお聞きしたいと思います。

斎賀委員

こども方の意見は別に何も無いの。こどものそれぞれ皆考えとか。

(西澤委員長「はい」)

事前に学校に行って、議会の役割と議員の何してますかという、そういうお話するのありましたよね。出前事業で、スライドで。あの中でね、議員の仕事について、幌延のやっていることが、言葉尻掴んで言うんですけど、良いことか悪いことか議員が決めるって言ってましたよね。良いことか悪いかどうかを決めるっていうのは、ちょっとおかしな発言だなと思っているんですよね。良いことか悪いことを決めるんじゃないなくて、あっちでやろうとしていることについて、協議をする程度に抑えておけばよかったんじゃないかなと思うんです。良いことか悪いかどうかって、町でやることみんな良いことばかりだと思ってるものだから。良いことか悪いことかを決めるっていうよりも、協議をするっていう言い方が良かったんじゃないかなと思ったんだ。聞いててね。

西澤委員長

あのスライドの中身でしたっけ。

斎賀委員

スライドの中身。最初のね。良いことか悪いことかを決めるっていうのは。

(鷺見副委員長「司法権だから」)

こどものことは、去年と違ったのは、メモ取るのがね、去年は聞きながらメモ取ったけども、今回は全然メモ取らないで、話終わった後に思い出しながらメモ取ってたから、どっちが良いかわからないけども。その時の町長の回答によれば、結論を先に言う人の回答もあれば、いろいろ例を話して、後から質問の答えはこうだっていう、最後に言うこともあったから、メモ最初取ってないから、頭の中で全部覚えてて、最後に結論言われたから。だから、中には最初に回答言ってほしかったという子もいる。その時その時の教育の仕方によって、メモを取るとか後で取るとかあるんだなと思ったんですよね。

西澤委員長

それは感想としてですか。

斎賀委員

それとあとは、議長に礼ね。してる子もいれば、してない子もいたし、議長が登壇する時も、ただその子もただスタスタ歩いて。2人しかいなかったんだけど。わかんなくて上がっていったのかもしれないけど。

西澤委員長

齋賀委員言ってるのは、メモ取りについては、齋賀委員自身は、メモ取った方が良いんでないかという意見としてですか。それとも、今回はメモ取らなかったなという感想ですか。
齋賀委員

取って良いんだ。その時その時って言うのは、どっちが良いかわからないけども、去年は取ってたのに今年を取ってないなというのが印象ですね。良いとか悪いとかは、何も言えないんだ。

西澤委員長

その他、発言していただきたいと思います。

高橋委員

こども議会も3回目迎えると、質問の内容とかがだんだん現実味のある質問が多くなってきて、それに対する説明もそうなんだけど、町も真剣にやらないと駄目だってものが出てきているような気がする。それは、去年のいうところの道路の凸凹を直してくれてというのは、去年それによって、直ったと。こども議会に言われたことに対して。今回は、まずは共進会場のトイレ。これも早急にやりますよという返事は、だんだん出てきてる。うちらとしては、こども議会やった成果というか、こども達もだんだんやってくれることによって、より勉強して、質問してくれてるんでないかなと感じがしてたってことです。

吉原委員

この経験というのは、すごく大事だと思う。やっぱりね、中学校の時に社会でそれぞれ行政の在り方とか、三権分立とかいろいろ習ってくる、勉強する。それが実際、自分で体験できるというのはね、すごいことだと思う。今、高橋君が言ったように昔は議員が多かったからね。その町内のふびんな点、ずいぶん指摘されてた。ところが、だんだん少なくなってきた、またまして町の人少ないんで、なかなか町のことは議員の人達も目つかないと思うんだ。それを一般のこども達が気づいて、指摘をするということ。これやっぱり素晴らしいよね。俺はそう思うよ。ずっと続けていくべきだなと。将来のこどもをつくるために絶対必要なことだなと、いつも感じてます。

富樫委員

こども議会第3回目になって、我々も慣れたんだけど、まだ生徒は良い意味で緊張してて、良い経験ができています。高橋委員も言ったんだけど、3回も続けば、実際に歩道が良くなったり、トイレが改修の目途ついてきたり、ある程度、行政の実現に向いてきている良い傾向だなと感じております。また今回、防犯カメラの件出たんだけど、ある程度不審者いる、いないに関わらず、これからもこども議会が出てくると思うんだけど、2回、3回となってくれば、町でも対応していくような方向に向くような気がしてくる、防犯上の意味でね。そんな気がしておりました。以上です。

無量谷委員

高橋君が言われたようにつikirかなという感じはいたします。そのためにも事前に中学校に出向いて、アドバイスしながら、質問の仕方とか、そういうものも充実して、発表に繋がったのかなという感じはいたします。ですから、最初のころから見ると、かなり内容が深く、中身が濃くなってきてるのかなという感じはしています。ですから、今後も続けていくべき。幌延中学校では、人前で喋るというのは、こども議会かもしれませんけども、僕が自主的に参加している、問寒別のワラベンチャー等では、最後に終わった段階で、

1人1人感想を發表するんですよね。ですから、そういう人前で喋るといふことは、僕は苦手な方なんですけども。問寒別あたりでは、そうやって何かの行事の後の自分の感想を述べているところをみると、幌延の方の教育関係でも、そういうのが日頃から發表みたいな形であれば、生徒の反省文にもあるけど、緊張したとか、初めて練習したり、いろいろな形で自分で努力してるなっていう感じは見受けられるんで、何かの機会の人前で喋れば、良いかなと思ってます。そういう機会を与えるべきないかなと思います。

植村委員

まず、こども議会を当初の本当の目的というのは、十二分に發揮できたのかなという気がしています。当然、中学生のあの年代の人達に行政とは何とやとか、議会とは何ぞやという話というのは、初めての経験、体験だったんでないかなと。それを体験したという、それを堂々とああやって質問をしたということに関しては、私達のためにも議会のためにも良かったんですけども、彼ら、彼女らのためにも素晴らしい経験をさせてやったなという気がしています。当然、私達もこども達から出た質問の中で、議会として、今度は自分達で考えて町政と向き合っていかなければならないものも出てきていると思いますんで、良い企画だったなと思います。来年度、選挙の改選期の時期に当たるんで、担当する方、議員は、学校との調整が出てくると思いますけども、なんとか上手にうまく調整できて、来年度も開催できれば良いなというふうに思ってますんで、どうかよろしくお願いします。

鷺見副委員長

幌延の場合は、高校が無いんで、高校生がね、こういう議会でやっても、こども議会とは言わないんだね。学生議会とかって言うんだけど。稚内の場合、そうやってやっていると。稚内なんか見ると、やっぱり再質問までさせてるんだよね。かなり難しい問題について、理事者が答弁不能になるぐらいまで、詰める人は詰めるんだってね。だから、あれ見ると、うちら中学生で良かったなっていう感じはしたのとき。正確に言えば、こども議会っていうのは小学生で、それから生徒議会っていうのは中学生で、学生議会っていうのは高校生以上っていう感じで分けてるんだね。だから、そういう面からみると、うちらの場合は、中学生が主だから、ちょうど1番素直な時だっていうのかさ、謙虚な時で、さっといくけど。どうも今回のやつ聞いてると、確かに事前に答弁が練られてはいたと思うんだけど、町長の方も踏み込んで答弁してないっていうかね、察されないような答弁で、生徒の方も気利かせて察せられない質問してくれたから良かったけど、僕が目から見ると、町長の答弁、検討違いの答弁してるんでないかなと思うものも多々あったしさ、そういった面から見れば、うちらの場合は中学生が対象だから、このぐらいで良かったのかなと思う。もう少し深めるのであれば、今度テーマを決めて、うちらの方でこういうテーマについてどうですかっていうような感じでやってみると、もっと深まるかもしれないですね。今までの流れを見てさ。それは生徒の意向によるから、生徒がそんなものやりたくないって言われたら、やる必要ないんだけど。ただ、少し方向を変えていくということになれば、今言った一般質問みたいな形じゃなくて、委員会みたいな感じでやる方法はあるなというような感じはしましたね。以上です。

西澤委員長

今回、当初から出前事業と委員全員で参加して、質問づくりから入って行って、議会の活動として、大変良かったなというふうには思っています。今、鷺見委員の方からも次回、こ

ういうこともできるんじゃないかという話と、再質問も含めてやっているところもあると。今回の時間配分をみると、16人程度で質問1問して、答弁が返ってきて、議員の講評等も含めると、時間的にはちょうどよかったので、なかなか再質問までというところは、1人1問するとできないのかなと。ただ、こども達の発表、1年生で研究した時、3月に言った時の発表は、2人1組なので、そこを踏まえると、2人1組で質問を考えて、再質問までということだと、やりようによってはできるのかなというふうには思っています。今回、こういう意見をいただきましたけれども、反省というか、次回に向けて。次回はですね、実は選挙の年なので、今やってる5月の連休明けというようなところでは、こども議会は開けないんじゃないかなというふうに考えてまして。その旨は中学校の方には伝えてありますので、その辺もあるんですが、どうなんでしょうか。この3回終わってみて、次回に向けて。続けた方が良いという委員の方の大半の意見なので、今の感じで良いのか。それとも、鷺見さん言ったようにこういうもできるんじゃないか、ああいうこともできるんじゃないかというようなところで、ご意見があればと思ひまして。

吉原委員

文章でなくても良いからね、終わった時点で、父兄の皆さんからどういう感想を持ってるか聞きたいな。だから、皆の父兄に集まってもらって、来てる人に集まってもらって、どうですか、こういうものでよろしいですかと。そういうところも聞いてみたいと思う。

西澤委員長

確かに当初の思惑といいますか、目的の1つとして、こども議会を通じて、関心を持ってもらえるんじゃないかというような当初の目的もあったので、やり方としては、新たに集まってもらってというよりも、あそこにアンケートみたいなものを置いておいて、書いてもらうとか。それを回収するというような方法はありえますよね。

吉原委員

本当はさ、文章でうんぬん、アンケート取るとね、なかなかね後に残ることだし、敬遠する人もいるから、あその場で父兄の人呼んでな。そして、どうですかと柔らかく聞いてみるのも1つの手だよな。

鷺見議員

本当は、こういうようなところに父兄の人達集まってもらってさ、簡単にね、5分か10分、懇談会みたいなやるのが良いんだと思う。

植村委員

うちらはね、3回目ということなんですけども、やってる本人は2年生になって初めてということなんで、来年度も新しい今の1年生がやるということなんで。基本的にこのスタイルで、やっていくということで、貴重な一般質問の経験をして、行政に対する関心を高めてもらう分では、良いのかなというふうに思うんですけどもね。その後の質問だとか、いろんなことを受けて、うちらが今、どうやって対策していくかっていうのが、議会で活動していく1つの中身、きっかけになっていければ、良いのかなというふうに思うんだけどさ。あんまり難しいことやると、担当の先生も大変だと思うんで。

吉原委員

今の議長の話でないけどね、生徒の対してはね、これ以上、中学生だから。求めるというのは、ちょっと厳しいかもしれない。したら、親御さんはどう思っているの。ただ、うちの

息子前に出て喋ったわでなくて、どうですか、こういうことを経験させてどうですかというのを聞いて、それは残しておいて、今後のこういうことをするための資料にするというのも良いでないのかと。

西澤委員長

1点、先に言わせてもらおうと。今まで質問と答弁書というのは、中学校に渡ってなかったので。

(藤田議会事務局長「会議録です」)

なので、それを有効活用してもらって、同じような質問が2年続いて動き出すっていうのも、もちろんあるんですけど、去年と同じような質問を作る時にですね、もうちょっと踏み込んで去年の答弁がこうだったけれども、こういうような。作り方として、そういうようなほうが良いのかなと思うので。そこは来年度に向けて、改善したいところだなというふうに思ってますんで。

植村委員

ちょっとその他なんだけど、出前講座で行って、やった時にちょっと感じたのは、わりと施設的に無いのかなと思った、要するにパソコンは画面にデータとして移るんだけど、音声は録れなかったんだよね。前回やってた議会の音声が聞かせられなかったということがあって、その施設的にそんな難しい話でないと思うんで、素晴らしかったんだけど、それだけはちょっと残念だったなと思って。

無量谷委員

今、鷺見さんから先程言われたんですけど、再質問というか、質問ね。時間上なかなか難しいという感じなんですけど、これどうしても突っ込んで聞きたかったっていう場合はね、書面で後で出すのはどうなのかなって感じなんですけど。全員と言わずにどうかなって感じ。

藤田議会事務局長

おっしゃることよくわかってまして、今回もそうなんですけども。こども達は1個ではなくて、2個の質問、事前に考えてました。それで、当日は1問ですってやって、回答だけでもいただけないでしょうかというようなお話も町長部局のほうにはしてみたいんですけども、結論から言うと、何言ってんのと。遊びじゃないんだよと。1問でも結局は、議会でも一般質問を処理するのと同じやり方してるんです、結局。1問でもあっても十何個の質問出でて、それを町長以下担当課である程度答弁を考えた後に皆で打ち合わせして、ちゃんとした答弁書作るんです。それを2個、3個っていうことになるとう時間的にはすごいかかるから、それは勘弁してくれというような話されまして、当然折角こども達で作った質問なんで、ちょっと答えだけでもっていうふうに西澤委員長とお話して、私達も当然、そういうふうにやりたかったんですけども、そういうこと言われたんで。そういうふうに言われたということを考えれば、当然その後の再質問うんぬんかんぬんということになると、また町として答えをだすことですから、担当課としての答えではないので、同じような手続きを踏むということになると、相当数の時間を。皆さんの一般質問も同じなんですけども、やっぱり1人の答弁考えるということは、かなりの時間かかって調整してやっていますので、そういうことなので、勘弁してくれっていうふうに言われるんだと思います。再質問なると、中学生ぐらいのレベルだと、返ってきたことに対して、じゃあどうなんですとかという質問までは、多分できないんじゃないかなと。普通に議論としては、知識がかなり違いますので、そこまではできないの

で、できる子出できない子で差がついちゃうんで、教育の現場としては、そういうことまで求めるのは。高校生ぐらいになるとですね、ある程度の知識があるんで、できるんでしょうけど、中学生にそれを求めるといのは、ちょっと無理じゃないかなと思います。

西澤委員長

他に意見ありませんか。

斎賀委員

こどものね、質問して、町でふつうどおり考えているんで、我々と同じレベルでやってる。その時の最初のこどもの質問の仕方なんですよね。町長の考えを聞きたかったのか。それとも一般的な回答を聞きたかったのか。町長、一般的な考えで自分の考え言ってないしょ。だから、そこがもやもやしたところだと思うんだよね。それで、こどもが納得して。だから、今後ね、いろんなことについて、前はトイレ、冬に水道凍結しちゃってできないんだよと。だけど、今回は改善したいと思います、早急にやりたい。そういう建設的に何回も出て変わるし。町長の考えもあつたし。町の考えもあつたし。だから、その時その時に質問よって、いろいろ回答は違うんだなと。回答の方法考えているんだなというの、改めてわかつた。

藤田議会事務局長

そういうことなんですけど、結局は一緒なんです。最終的にこういう答弁にしましょうねって判断するのは、町長なんです。その前段である程度の考え方をまとめておくのは、各担当課で、今までの例からいくとこうじゃないでしょうかというような答弁は作るんですよ。でも、最終的にここはこうだよねって決定するのは、理事者だから。その時の理事者の状況だとか、周りの状況だとかを判断しながら、あそこで出してるのが町長の考え方を答弁で出してるということだから、はっきり言えない部分ってあるんですよ、行政としてはね。当然、こうです。やりますって言えることと、いやいやそこについては、って行政なりの理屈があるから、踏み込んでできないって言うけども、はっきり言ってこども議会の場で、こどもの考え方を全否定するっていうことは、基本的にできないと思うんです。そうなると答弁としては、考えた方わかるけどってというような形になるのは仕方ないんじゃないかなと思います。

吉原委員

我々だって質問して、行政的な答えは町長するさ。町長、あんたの考えが聞きたいんだ、ってこうやって言われれば、町長も私の考えはこうしたいんだけど、そうはなかなかいきませんっていろいろ答弁する。だからね、こども達までそこまでいっちゃうと、もう。

鷺見議員

経過は大体わかつてるからさ。聞くとね、こども等の質問だってわかつても、なんかイライラするわな。そういうものだよな。ただ、一般的にこども達にああいう発言をされると、1つの世論みたいな感じになっちゃうから、そういった面では、我々議員としてもやりやすいとか、ある意味での合意事項になってくるから、すごく良いことだなというふうには思います。

西澤委員長

今回ですね、これから議会報集まるんですけども、今回の議会報は、昨年度までは、町広報誌にこども議会のことを質問要旨と答弁要旨が載っていったんですけども、今回議会で、質問要旨を載せることにしておりますので、そういう議会報に次号はなりますので、よろし

くお願いいたします。

吉原委員

これ載るの。

西澤委員長

この反省も前も載せたので、ページがあれば、議員の意見として、こういう反省でしたということを載せたいと思います。

では、よろしいでしょうか。それでは、これで第2回情報推進常任委員会を閉じたいと思います。おつかれさまでした。

(15時26分 閉 会)

以上、相違ないことを証するため署名する。

委員長 西澤裕之

以上、記録する。

主事 満保希来